

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 障害者福祉論	[授業形態] 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] 福祉心理専攻科 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年	[授業回数・時間数] 26回 52時間	
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)		
[授業の目的] 障害者理解のための基本的知識や考え方を学ぶことを目的とする。その上で、障害者福祉施策の展開とその特徴についての概要を理解し、実際に障害者への福祉的援助を行う上での必要な知識と方法を習得することを目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について説明できる。 ・ 障害者福祉制度の発展過程について説明できる。 ・ 相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について説明できる。 ・ 障害とは何かを自分なりの言葉で考え、支援のための留意点を具体的に提案できる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加していたことが確認できる。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 8 障害者福祉』中央法規出版、2021年 		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
1	オリエンテーション (障害者福祉とは何か)
2	障害者福祉の理念① (ノーマライゼーションとリハビリテーション)
3	障害者福祉の理念② (ソーシャルインクルージョン)
4	障害者を取り巻く社会情勢① (1980年代まで)
5	障害者を取り巻く社会情勢② (1990年代から)
6	障害者の生活実態と国際生活機能分類
7	障害者福祉にかかわる専門職と価値・倫理
8	障害者にかかわる法体系① (グループワーク発表準備①)
9	障害者にかかわる法体系② (グループワーク発表準備②)
10	障害者にかかわる法体系③ (グループワーク発表会)
11	障害者総合支援法① (法の目的・理念・対象)
12	障害者総合支援法② (障害福祉サービス：介護給付・訓練等給付)
13	障害者総合支援法③ (自立支援医療・相談支援・補装具・地域生活支援事業)
14	期末考査対策 (まとめ)
15	東北福祉大学通信教育部スクーリング：はじめに (学びにあたって)
16	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者福祉とは (理念を含む) ①
17	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者福祉とは (理念を含む) ②
18	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害種別 (障害者基本法含む) ①
19	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害種別 (障害者基本法含む) ②
20	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者福祉の基本にあるもの
21	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害の概念と理念
22	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者総合支援法 (法的制度を含む)
23	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者・児の実態
24	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者施策の体系
25	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者福祉サービス
26	東北福祉大学通信教育部スクーリング：まとめ及び質疑応答

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 教育・学校心理学B (学校心理学)	[授業形態] <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 選択
[対象学科・学年・時期] 福祉心理専攻科 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年	[授業回数・時間数] 14回 28時間	
[担当教員および実務経験] 鈴木 崇弘 (臨床心理士・公認心理師) 新潟市教育相談センター相談員、新潟県教育委員会スクールカウンセラー、精神科クリニックにて心理療法担当職員 (非常勤)、豊岡短期大学非常勤講師を経て現在に至る		
[授業の目的] 教育現場において生じる問題およびその背景を理解し、子どもの適応支援の方法について学ぶことで、学校適応のための支援方法の習得を目指す。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育現場において生じる問題を説明できる ・ 教育現場において生じる問題の背景を説明できる ・ 学校適応のための条件を説明できる ・ 学校不適応の子ども支援の方法を説明できる 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、実技試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に積極的に参加していたことが確認できる。 		
[使用テキスト・参考文献] 田上不二夫 監修 中林恵子 編 『学校カウンセリング 問題解決のための校内支援体制とフォーミュレーション』 ナカニシヤ出版 2011		
[備考] なし		

[授業計画 (内容)]

1	学校カウンセリングの役割
2	チームでの協働支援
3	教師とスクールカウンセラーの協働
4	校内支援体制と教育コラボレーション
5	教育コラボレーションによる再登校支援
6	事例検討①
7	学校適応の条件
8	学校適応のための発達課題
9	価値のトライアングルと学校適応
10	学校環境への適応システム
11	事例検討②
12	問題解決フォーミュレーション
13	事例検討③
14	論文の輪読

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 障害者・障害児の心理	[授業形態] 講義	必修
[対象学科・学年・時期] 福祉心理専攻科 1年 後期	[授業回数・時間数] 15回 30時間	
[担当教員および実務経験] ・石墨 愛 障害者施設にて障害者支援員として勤務。		
[授業の目的] 知的障害、精神障害、発達障害などの障害を持ちながら生活している人々の心理・行動面に関する理解を深めるとともに、それぞれの障害像や引き起こされる諸問題について学ぶ。		
[授業の方法および概要] 授業時は、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・「障害の概念」や「障害児・者の心理」を理解する視点を身につける。 ・それぞれの障害の原因や種類、特徴等の要点を整理し、覚える。 ・障害特性によって異なる心理的特性や心理的問題について事例を通して理解する。 ・心理的特性や心理的問題の違いに応じた援助のあり方についての自分なりの意見をもつ。 		
[成績評価の方法と基準] <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(80%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(20%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 田中農夫男・木村進 編著、『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』福村出版、2015年 ・ 柿澤敏文編、『シリーズ心理学と仕事15 障害者心理学』北大路書房、2017年 		
[備考]		

[授業計画 (内容)]

1	導入 障害とは
2	ASD とは①=DSM-5 からみる症状の基準=
3	ASD とは②=病理モデルの理解=
4	ASD とは③=治療アプローチ=
5	統合失調症とは①=DSM-5 からみる症状の基準=
6	統合失調症とは②=病理モデルの理解=
7	統合失調症とは③=治療アプローチ=
8	事例検討①=症状のあらわれ方と捉え方=
9	事例検討②=事例の比較=
10	事例検討③=各障害の類似点と相違点=
11	強度行動障害について①概要
12	強度行動障害について②特徴
13	強度行動障害について③目的
14	強度行動障害について④支援方略
15	強度行動障害について⑤全体像

授 業 計 画 (シラバス)

<p>[科目名] 臨床心理学概論 I</p>	<p>[授業形態] <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 必修 選択</p>
<p>[対象学科・学年・時期] 福祉心理専攻科 1 年 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 通年</p>	<p>[授業回数・時間数] 30回 60時間</p>	
<p>[担当教員および実務経験] 鈴木 崇弘 (臨床心理士・公認心理師) 新潟市教育相談センター相談員、新潟県教育委員会スクールカウンセラー、精神科クリニックにて心理療法担当職員 (非常勤)、豊岡短期大学非常勤講師を経て現在に至る</p>		
<p>[授業の目的] 心の病理と代表的な心理療法を学びながらそれぞれの事例に触れることで実践的な技法の獲得と、臨床心理学的な視点を身に付ける。</p>		
<p>[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。</p>		
<p>[授業の到達目標] ・臨床心理学における代表的な「心理アセスメント」や「心理療法」について具体例を挙げながら説明できる。 ・「精神力動的アプローチ」についての理論的背景と、人間観を説明できる。 ・「認知行動的アプローチ」について、人が新たに行動を獲得し、認知を変容していくためのメカニズムについて説明でき、必要な学習プログラムを作成できる。 ・「人間性心理学的アプローチ」について、対人援助職としての基本的態度と自己実現について説明でき、対話の中で実践できる。</p>		
<p>[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、実技試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加していたことが確認できる。</p>		
<p>[使用テキスト・参考文献] 杉江 征・青木 佐奈枝 編 『スタンダード 臨床心理学』 サイエンス社、2015年</p>		
<p>[備考] なし</p>		

[授業計画 (内容)]	
1	オリエンテーション (臨床心理学とは何か)
2	臨床心理学の活動と役割
3	心理的問題の理解と方法
4-5	精神力動的アプローチ
6-7	認知行動的アプローチ
8-9	人間性心理学的アプローチ
10-12	遊戯療法
13	カウンセリングと自己成長
14-15	構成的エンカウンター
16-17	ベーシックエンカウンター
18	教育領域における臨床心理学
19	医療領域における臨床心理学
20	産業・司法領域における臨床心理学
21	事例検討①
22	事例検討②
23-28	症例研究
29-30	症例研究発表会

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 心理的アセスメントⅠ	[授業形態] <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 選択
[対象学科・学年・時期] 福祉心理専攻科 1年 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 通年	[授業回数・時間数] 15回 30時間	
[担当教員および実務経験] 鈴木 崇弘 (臨床心理士・公認心理師) 新潟市教育相談センター相談員、新潟県教育委員会スクールカウンセラー、精神科クリニックにて心理療法担当職員 (非常勤)、豊岡短期大学非常勤講師を経て現在に至る		
[授業の目的] 心理的援助を実践する際に必要となる、クライアントを多面的、総合的、全人的な視点から捉えるための理論と方法の習得を目指す。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 心理面接における正常・異常の違いについて説明できる ・ 心理アセスメントの3本柱である「面接法」、「観察法」、「検査法」について具体的に論じることができる ・ アセスメントにおける守秘義務の適用範囲について説明できる 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、実技試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に積極的に参加していたことが確認できる。 		
[使用テキスト・参考文献] 日本健康心理学会 編 『健康心理アセスメント概論』 実務教育出版、2002年		
[備考] なし		

[授業計画 (内容)]	
1	アセスメントの意義と役割
2	アセスメントのターゲット①
3	アセスメントのターゲット②
4	アセスメントの方法
5	アセスメント法の必要条件
6	アセスメントの留意点
7	パーソナリティのアセスメントの種類と活用①
8	パーソナリティのアセスメントの種類と活用②
9	ストレスと情動のアセスメントの種類と活用①
10	ストレスと情動のアセスメントの種類と活用②
11	投影法検査
12	描画法検査
13	学習と思考
14	アセスメント演習
15	全体振り返りとレポート課題の説明

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 社会・集団・家族心理学B (家族心理学)	[授業形態] 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] 福祉心理専攻科 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年	[授業回数・時間数] 15回 30時間	
[担当教員および実務経験] 栄 千恵子 神経科クリニック、教育研究所等で心理カウンセラーとして勤務		
[授業の目的] 本科目では、家族をシステムとして理解する視点（家族システム理論）を学び、家族をどうとらえるか、家族をどう見立てるか、家族をどう援助するかについて学ぶ。また、家族がたどる発達段階について理解し、それぞれの時期に家族が直面する危機とその対応を理解することを目的とする。		
[授業の方法および概要] 授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・システムとしての家族を説明することができる ・家族が個人に及ぼす影響を説明することができる ・家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて説明することができる 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 裁判傍聴レポートを期限までに提出し、その内容に自分の意見が述べられている。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] テキスト：中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子著『家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助(第2版)』有斐閣、2019年		
[備考]		

[授業計画(内容)]

1	家族システム理論
2	家族を理解するための鍵概念（構造派）
3	家族療法の発展史
4	夫婦関係の危機と援助
5	育児・子育てと家族の役割
6	家族が経験するストレスと援助
7	コミュニケーション学派
8	家族内外にあるジェンダーに関する問題
9	男性と家族
10	MRI・コミュニケーション5つの公理
11	コミュニケーションの悪循環
12	家族の発達段階（第1段階～第2段階）
13	家族の発達段階（第3段階～第4段階）
14	家族の発達段階（第5段階～第6段階）
15	学習内容のまとめ

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ	[授業形態] 講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 福祉心理専攻科 2年 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 72回 144時間
[担当教員および実務経験] 栄 千恵子 神経科クリニック、教育研究所等で心理カウンセラーとして勤務		
[授業の目的] 心理学支援法とは心理学に固有の、カウンセリング・心理療法・その他の支援方法を包含する新たな用語である。心理的な問題で苦しむ人々を支援したりその人固有の豊かな生き方を模索することを支えたりするための基盤となる基本的な態度およびに、心理療法の理論的背景と実践方法の習得を目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿ってテキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い内容の修得を目指す。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適用と限界を説明できる。 ・ 訪問による支援や地域支援の意義について説明することができる。 ・ 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について述べることができる。 ・ プライバシーへの配慮について説明することができる。 ・ 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について解説できる。 		
[成績評価の方法と基準] <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 末武康弘『心理学的支援法—カウンセリングと心理療法の基礎』誠信書房、2018年 		
[備考]		

[授業計画(内容)]

1	心理学的支援法への誘い	
2	心理学的支援法の特質	
3	心理学的支援法の効果と限界	
4-5	心理学的支援法の対象	
6-7	心理学的支援法の発展	
8-9	心理学的支援法の理論と方法	
10-11	心理学的支援法の主要理論	
12-13	心理学的支援法のプロセスと実際	
14-16	精神力動的アプローチ	
17-19	認知行動的アプローチ	
21-23	パーソンセンタードアプローチ	
24-26	箱庭療法	
27-29	プレイセラピー	
30-32	フォーカシング	
33	心理学的支援法Ⅰ スクーリング	心理学的支援の概要①
34	心理学的支援法Ⅰ スクーリング	心理学的支援の概要②
35	心理学的支援法Ⅰ スクーリング	精神分析／精神力動論
36	心理学的支援法Ⅰ スクーリング	ライフサイクル論①
37	心理学的支援法Ⅰ スクーリング	ライフサイクル論②
38	心理学的支援法Ⅰ スクーリング	ライフサイクル論③
39	心理学的支援法Ⅰ スクーリング	現代社会と精神力動的心理支援
40	心理学的支援法Ⅰ スクーリング	日常生活と精神力動的心理支援
41	心理学的支援法Ⅱ スクーリング	クライエント中心療法、フォーカシング
42	心理学的支援法Ⅱ スクーリング	カールロジャースの面接
43	心理学的支援法Ⅱ スクーリング	認知行動療法
44	心理学的支援法Ⅱ スクーリング	心理学的支援法のプロセスと実際
45	心理学的支援法Ⅱ スクーリング	箱庭療法・内観療法・森田療法
46	心理学的支援法Ⅱ スクーリング	プレイセラピー、ブリーフセラピー
47	心理学的支援法Ⅱ スクーリング	アウトリーチ、危機介入と心のケア
48	心理学的支援法Ⅱ スクーリング	心理教育
49-50	エンカウンターグループ	
51-52	ブリーフセラピー	
53-54	アウトリーチと危機介入	
55-56	精神分析における局所論・力動論	
57-58	精神分析における発達理論	
59-60	精神分析における防衛機制理論	

61-62	自我心理学と対象関係論
63-64	ユングの分析心理学
65-66	アドラーの個人心理学
67-68	行動療法における学習理論
69-70	レスポデント技法とオペラント技法
71-72	振り返りとまとめ